

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭64-5556

⑬ Int. Cl.

A 61 L 9/12

識別記号

府内整理番号

⑭ 公開 昭和64年(1989)1月10日

6779-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 芳香器

⑯ 特願 昭62-159830

⑰ 出願 昭62(1987)6月29日

⑮ 発明者 西村 晴雄 静岡県清水市吉川813番地 日本ケミカル工業株式会社内
 ⑯ 出願人 日本ケミカル工業株式 静岡県清水市吉川813番地
 会社
 ⑰ 代理人 弁理士 千田 稔

明 案 写

図が形成されてなる前記登録請求の範囲

第1項記載の芳香器。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本発明は、建物や自動車等の室内に配置して、芳香を発散させるための芳香器に関する。

<従来例および問題点>

従来よりこの種の芳香器としては、①密封して販売される固体芳香剤の包装袋、箱、またはピンなどを、使用時に開封、開栓した後これを放置して芳香を発散するようにしたもの、或いは②特開昭60-186241号や特開昭61-40366号に見られるように揮発性の芳香剤を含浸させた媒体を容器内に設置し、その揮発を促進し且つ上方へ放散誘導するために容器内に圧電振動板を取付け、うちわ動作に

1. 発明の名称

芳香器

2. 特許請求の範囲

1. 芳香剤を収納するための収納室を有する容器と、

該収納室の周壁に1以上形成された吐出口と、

該収納室内に配設され、常態においてバネ圧により一方向に変位せしめられた送風用のペロー状ダイヤフラムと、

該ペロー状ダイヤフラムを駆動するためのソレノイドと、

からなる芳香器。

2. 収納室が、本体部と着脱可能なキャップ部とよりなり、該キャップ部の端面に吐出

特開昭64-5556 (2)

より送風する方式のものが知られている。

これらは揮発や蒸散により一旦空中に放出した香氣を更に気体として拡散するためのものであるため、容器外への放出口ができるだけ大きく開放する必要がある。ところが、放出口が大きく開放していると、芳香剤の自然放散により、室内に香りが長時間充満したままとなり、快適であるべき室の室内空間が、過度の香料放出により逆に嫌悪感の場となってしまうことが多い。

<問題点を解決するための手段>

本発明は、上記の欠点を除去するために提案されたものであり、

その目的は、吐出量を自由に調節することができるとともに、吐出停止後は自然漏洩による芳香の放出をほぼ完全に防止することができる芳香器を提供することにある。

若されるキャップ部(22)の2部材で構成されている。(3)は芳香剤例えばタブレット状の固形芳香剤(4)を収納するための収納室であり、本体部(21)と挿着時のキャップ部(22)によって形成される。なお、該芳香剤(4)は収納室(3)内に投入し、又は適宜の支持部材により定位部に固定するものとする。

(23)は収納室(3)の周壁に形成された吐出口であり、この実施例ではキャップ(22)の先端面に1個形成されているが、これを複数個形成し、又は本体(21)側の周壁に穿設形成してもよい。(5)は送風用のベロー状ダイヤフラムであり、リング状の取付け部材(51)によって収納室(3)を図において上下に仕切るよう内壁に固定されている。

(6)は容器(2)内に内蔵固定された駆動用のソレノイドであり、そのプランジャー(61)の

本発明の他の目的は、構成が簡単で且つ部品点数が少なく製造の容易な芳香器を提供することにある。

而して、上記本発明の目的は、「芳香剤を収納するための収納室を有する容器と、該収納室の周壁に1以上形成された吐出口と、該収納室内に配設され、常態においてバネ圧により一方向に変位せしめられた送風用のベロー状ダイヤフラムと、該ダイヤフラムを駆動するためのソレノイドと、からなる芳香器」によって達成される。

<実施例>

次に、本発明に係る芳香器(1)を図面に示された実施例に従って、更に詳しく説明することとする。

(2)はプラスチック製等により円筒形に形成された容器であり、本体部(21)とこれに挿

先端が上記ダイヤフラム(5)に連結されている。(7)は復帰用スプリングであり、常態においてダイヤフラム(5)を上方に押し上げる方向にプランジャー(61)を押圧している。

(62)は連結固定用のネジ、(63)は駆動用コイル、(64)はボビン、(65)は取付け用フレーム、(8)はソレノイド(6)用の電源回路(図示せず)を収納するための回路室、である。

而して、電源回路には適宜のスイッチおよびパルス電圧発振回路が内蔵されており、ソレノイド(6)を任意のインターバルで付勢・離勢するものである。なお、この電源としては容器内蔵のバッテリー式、自動車のシガーライタ電源、又は家庭用交流電源等の適宜の電源を使用することができる。

ここで、ソレノイド(6)が駆動してプラン

ジャ (61) が上下に振動せしめられると、ダイヤフラム (5) が上下に振動せしめられるので、吐出口 (23) を介して収納室 (3) と外部の空気が強制的に出入りせしめられることとなる。この空気の流動により容器内に充満していた芳香剤 (4) の香気が、外界例えば芳香器 (1) を設置した自動車の室内に徐々に放出されるものである。

また、電源をOFFすればソレノイド (6) およびダイヤフラム (5) は図示の位置に復帰して停止するので、細孔で形成された吐出口 (23) を空気が出入することはない。従って、香気は外部に殆ど放出漏洩しないものである。

而して、電源スイッチの操作だけで室内の香気放出のタイミング・時間を任意にコントロールできるので、過剰供給による不快感を

防止できる。

また、電源回路中にタイマを内蔵して任意の吐出時間を設定できるように設けること、容器を円筒形以外の他の形状とすること、等も本発明に含まれる変更実施例である。

<効 果>

本発明に係る芳香器によれば、香気の吐出量を自由に調節できるとともに、吐出停止後は香気の漏洩放散をほぼ完全に防止することができるものである。

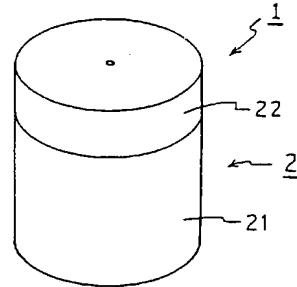
また、構成が簡単で且つ部品点数が少なく製造の容易である等、種々の有用性をもつものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係る芳香器の実施例を示す斜視図、第2図はその中央縦断面図、である。

- (1) …… 容器、
- (2) …… 収納室、
- (23) …… 吐出口、
- (4) …… 芳香剤、
- (5) …… ダイヤフラム、
- (6) …… ソレノイド、
- (7) …… 復帰用バネ。

第1図



第2図

